

# MCC雑感2008-1

於 : 丸紅本社ビル一階 コンチェルト  
出席 : 12名  
ティータイム : 8名

## 1) 今月のテーマ「データベース」

### (1) 私がデータベースを考えたキッカケ

私がデータベースを考えねばならなくなったのは、差し迫ったニーズがあったからです。昨年夏から音楽番組の録画を始めて、DVDにダビングしたデータが集まり始めましたが、これをどのように整理・管理するかは結構難しいことが解って来ました。

その試行錯誤のプロセスは概ねこのようなものでした。

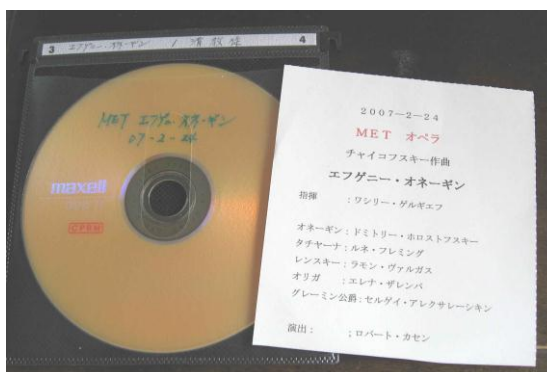
#### A) カードの作成

これまではDVDはケースに入れ、外から内容が解るように小さなカードを作ってケースの上蓋に内側から貼り付けて置きました。

プラスチックのケースは数が増すと重いし、嵩張るのですぐにこれはプラスチックの袋に変わりましたが、いずれにしてもカード式だったのです。

しかしながら、カードに書き込めるデータは限界があるし、カードはバラバラになり易くて管理はかなり面倒な上に、別に索引作りも必要です。

何よりも問題なのはDVDのメディアとカードを結びつけるキーはナンバリングしかありませんが、それがまた難物でした。



#### B) DVDケースとブックの作成

次に考えたのは急増するDVDを格納するケースの手配と、古典的なブック・アルバムの作成で、通し番号によりDVDを関連付けるという考え方でした。

これはいわば「カード型データベース」とも云えるし、帳簿型整理ともいえましょう。この方式は沢山のデータを盛り込める利点はあるけれども、結局はナンバリングの難問に逢着するということでは一緒でした。



最初に私はジャンルをオペラ、オーケストラ、ソロ、ドキュメンタリーに4分して、

- 1～30 オペラ
- 31～50 オーケストラ
- 51～80 ソロ
- 81～100 ドキュメンタリー

というように規定していたのですが、どのカテゴリーも忽ちのうちに溢れてしまって、ナンバリングは崩壊してしまっただけです。

私のアナログ的思考では、毎週増え続けるDVD（データ）をどうすればうまく管理しながら、増やして行けるのか見当もつかないばかりか、100を越してしまったアルバムはその検索のインデックス作りには途方に暮れるばかりとなってしまうのです。

### C) コロンブスの卵のような「データベース」の発想

救い主は正月休みに帰国した次男で、彼の問題解決への提案は非常に的確なものでした。まずDVDのアイデンティティを通しのナンバーで決めてしまい、ジャンル、内容などの一切をデータベースとして扱えば、一覧表は如何様にも作れるし、データの並べ替えや抽出更には検索も簡単であると云うのです。つまり毎日のように増え続けるDVDの並べ方などは考えずに、日付順にどんどんナンバリングしてしまい、その後でパソコンでデータベース処理をすればよいというのです。

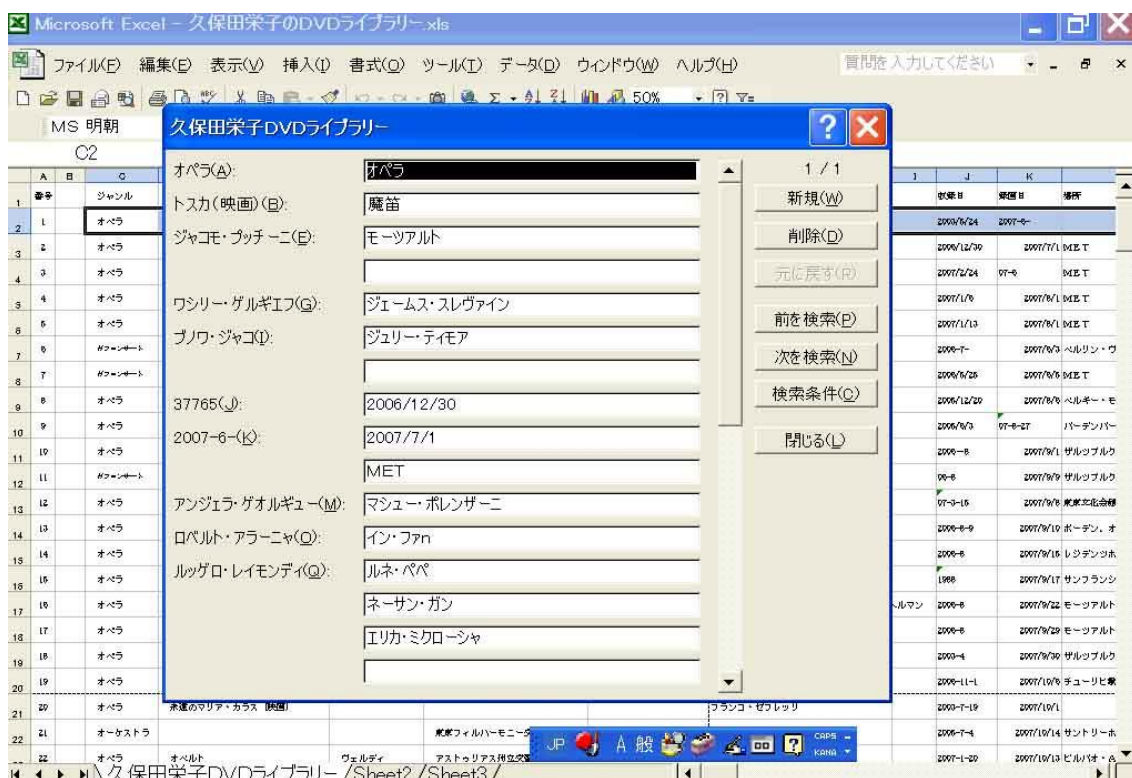
これは正に眼から鱗のような示唆であり、助言でした。

なるほど実際のDVDの物理的な並び方など問題ではなく、どのように並べられていても、ナンバリングでIDが掴めれば、パソコン上で検索も作表も簡単に出来てしまうのです。

そして、この作業はエクセルで十分簡単に出来ることでもありました。つまりエクセルは単なる作表・計算ソフトであるのみでなく、データベース機能も十分に持っているのです。即ちオートフィルによる分類ごとの抽出で作表は簡単に出来たのです。

#### D) エクセルへの入力

エクセルへのデータの入力は、下記のようにカード形式の画面をメニューバーの「データ」→「フォーム」で呼び出せば非常に容易に入力出来ます。つまりエクセルのセルに直接入力するよりずっと簡単なのです。



そして、表そのものはエクセルですから、様々に色分けしたり、並べ替えをしたり、書き足し、削除・修正など様々な機能を存分に生かすことも可能だったので。

このような過程で、私はエクセルの持っている「データベース」の活用を体験し、これまではあまり認識していなかった、パソコンに於ける「データベース」の効能を実感するに至ったのです。

(2) データベースとはそもそも何なのか？

正面切って問われると一寸困ってしまう設問ですね？

データベースという言葉は最近ではよく頻繁に耳にする言葉ですが、「データベース」という言葉を聞いてみなさんは何を想像しますか？

判っているような気もするけれど、実はあまり解っていない……??



そして、我々は意識しないところで様々なデータベースを利用しているのです。広義の意味では図書館もデータベースということもできますし、銀行のATM、普段利用している電話帳もデータベースと言えます。

そもそも「データベース」という言葉が使われ始めたのは、1950年代後半、ソ連のスプートニク・宇宙開発計画により大ショックを受けた米国が、それまで分散されていた宇宙開発関連の情報を一元化して集約し、ソ連に追いつき追い越すための努力をする過程で生れたと言われています。つまり情報（データ）の基地（ベース）がその語源です。

では、一体どういうモノを「データベース」と定義しているのでしょうか？  
例えば図書館はどうか？

ここには膨大なデータが集積されており、綺麗に分類・整理されていて、索引

のインデックスや図書カードから情報を探し出すことが出来ます。  
この意味では「図書館」は正しく「データベース」そのものです。  
しかしながら一般にはこれでは「データベース」の説明にはなりません。

手っ取り早く辞書で調べてみましょう。「大辞林 第二版」では以下のように書いてあるようです。

「コンピュータで、相互に関連するデータを整理・統合し、検索しやすくしたファイル。また、このようなファイルの共用を可能にするシステム。」

「データベース」とひとくくりで言ってしまうと、紙などの媒体を介しているものも、広義に解釈すると含まれてしまいますので、ここでは、辞書に書いてあるように「コンピュータ」上のデータベースが前提となるのが自然です。  
データも当然のこととしてデジタル化されたデータでなければなりません。

### (3) ファイルとデータベースとはどう違うか

コンピューターの中には様々なファイルが詰まっています。  
我々はファイルを適切なアプリケーション・ソフトを使って開きますが、例えばそれならワード文書が沢山集まったフォルダーはデータベースと云えるか？  
画像ファイルの詰まっている「マイピクチャー」はデータベースなのか？  
これには殆んどの方はノーと答えるでしょう。

ハードディスクそのものは、巨大なデータを蓄積しており、エクスプローラを使えば自分の欲しいファイル（データ）を検索、抽出出来るけれども、かと言ってハードディスクそのものを「データベース」とは呼べません。  
つまり「データベース」というのは、単なる膨大なデータの集積というだけでは「データベース」とは呼ばないわけです。

その反面大袈裟なことを云わなくても、「筆まめ」は立派な「データベース」であります。

「筆まめ」は住所録ソフトであり、宛名書きソフトではありますが、同時に様々な検索や抽出機能を持っており、それ自体が小なりとは云え、且つ複数のユーザーで共有もしないけれども、「データベース」そのものと云えます。  
小林さんの誇る「マイペンシル」も立派な「データベース」と考えていいでしょう。

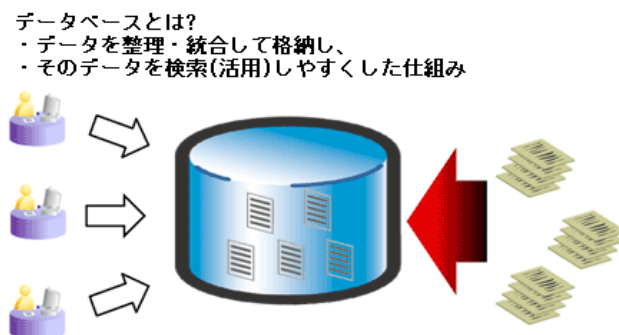
## (4) 一般論としてのデータベースの概念

前に述べた「データベース」の定義は、下記のようなものでした。

「コンピュータで、相互に関連するデータを整理・統合し、検索しやすくしたファイル。また、このようなファイルの共用を可能にするシステム。」

この後段の「ファイルを共用可能にするシステム」ということに重きを置くと、個人の筆まめやマイペンシルは一般的な意味でのデータベースとは言い難いので、この辺りは厄介ですが、現在のようにインターネットが広く使われる時代では、俗に云う「データベース」とは下の絵のような概念が通常的です。

下の絵の右側が、コンピュータ上に存在する様々なデータ 1 個 1 個のファイルです。それを、中央にあるデータベースという仕組みにデータとして格納します。そのデータを、左側にあるコンピュータなどの端末からデータベースにアクセスし、必要なデータを取り出します。この流れの中で、データベースは、データを整理して貯め、そのデータを情報として活用するために取り出しやすくする役割を負っています。—これがデータベースです。



要するに膨大なデータをコンピュータで見えるように整理し、すぐに取り出せるように検索の仕組みを作って纏めたもの・・・と云えばよいのでしょうか？

「データを整理・統合し、検索しやすい仕組み」であって、単に「データを格納する」だけでは、データベースとは言いません。この「データを整理・統合し、検索しやすい仕組み」を提供するものこそ、データベース管理システム (Data Base Management System/DBMS) なのです。



## 2) 広田さんの受難

今月の最大の話題となったのは、広田家の半焼騒ぎであろう。1月5日未明の隣家の火事は広田夫人の119番で、辛うじて類焼を免れたということで、これこそ広田家にとって、「災い転じて福」の予兆となって欲しいものである。

因みに昨年末広田さんは前立腺癌の放射線治療からホルモン療法への転換で、かなりのご苦労もしていたのだが、新年MCCには以前よりむしろ顔色よく現われ、非常に多弁でもあり、元気を快復されたというのが、ティータイムでの評判ではあった。

因みに広田さんの災難はどのように担保されるのかが話題になった。広田さんは隣家のご主人の寝タバコが原因のようだが、隣家は全焼であり、ご主人も亡くなってしまったので、とても気の毒でそのような損害賠償の話など到底持ち出せる雰囲気ではないとのことだった。

### <失火の責任に関する法律（略称:失火責任法あるいは失火法）>

民法第709条の規定は失火の場合にはこれを適用せず。但し失火者に重大なる過失ありたるときはこの限りにあらず。

このように規定されています。これは明治32年に制定された古い法律ですが現在でも適用されています。考え方として日本では狭い土地に木造家屋が密集しており、火災が発生すると広がりやすいという住環境にあるのと自宅を失った上に延焼させた人の家に責任を負わせるのは賠償能力をはるかに超えてしまうなど様々な背景があるようです。

(法学部出身者としては恥かしい限りですが、昔習ったかも知れないけれども、今ではまるで初耳のようなオハナシでした)

て著いさも	ら々跡	跡	跡
五日前四時半ごろ、	木造民家全焼 住民3人死傷	世田谷	東京都世田谷区喜多見九
などして病院に搬送され	とみられる遺体が発見された。沢井さんの妻(60)と長女(33)も煙を吸う	壁などを焼いた。一階和室の焼け跡から沢井さん	の木造二階建て住宅の沢
		全焼し隣接する住宅の外	井寿一さん(64)方から
		出火、計百二十平方メートル	出火、計百二十平方メートル
		が、火災に気が付き飛び	が、火災に気が付き飛び
		降りて避難した。警視庁	降りて避難した。警視庁
		成城署などは出火原因な	成城署などは出火原因な
		どを調べている。近隣住	どを調べている。近隣住
		民が一一九番通報した。	民が一一九番通報した。
			調べによると、妻と長
			女は二階で就寝していた
			が、火災に気が付き飛び
			降りて避難した。警視庁
			成城署などは出火原因な
			どを調べている。近隣住
			民が一一九番通報した。
			調べによると、建物は一
			階が店舗で、二階には
			五部屋に計五人が住んで
			いた。けがをした男性の
			一人は二階から飛び降り
			て避難したという。

### 3) 小島さんのロンドン旅行ムービー

小島さんのイギリス旅行の中から特にノーフォークへの旅は今年の本会のメンバーの作品中の白眉である。

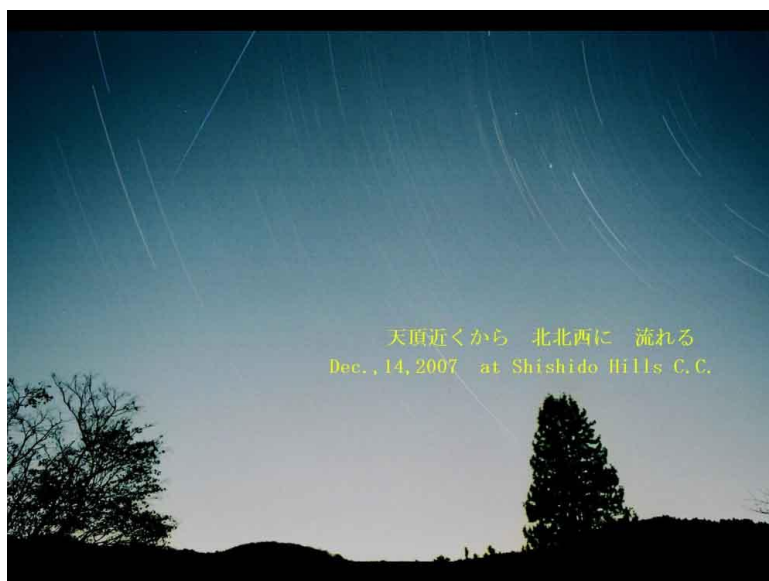
10年前にパソコンを始めた時からの念願であった、ムービーの編集を成し遂げたと共に、ご家族の至福の時の貴重な記録でもある、このご努力に皆さんの惜しみない拍手が聞かれたのは至極当然であった。



### 4) 荒川さんがまたまたやりましたね

常に体力勝負には自信ある人ですが、そのエネルギーもまた人後には落ちません。今回の午前零時の宍戸カントリー・1番ホールで、12月16日に撮影された「ふたご座流星群」には皆さん度肝を抜かれました。

我々普通の老人はこれだけのロマンとエネルギーには只管脱帽あるのみです。



—以上—